

1

1 (3・7・10 各完答、4 順不同・完答)
 感覚器から
 2 つまり

3 消口
 4 目・鼻・耳・口
 ※4 「」付きも可。

5 B
 6 進化の過程

7 顔
 8 させます。

9 私たちの体
 10 ア
 1 イ
 1 ウ
 2

11 a
 器官
 b 発達
 c 由来

d 億
 e 歴史

2

1 a 週間
 b 回路

2 ウ
 3 I
 新子
 II
 けれど、
 朋

4 友
 5 ね
 6 (記述題)
 7 ⑥
 つ
 ⑦
 く

8 イ
 9 A
 エ
 B
 ウ
 C
 ア
 D
 イ
 10 ウ
 11 エ

2

6
 他 の 人 が かん た ん に は 入 り
 こ め な い 仲 よ し た ん の グ ル ー プ
 の か ら に お さ ま し の て 「 仲 間
 が い る ー と い う 思 い だ け で
 日 々 を 過 ご し て い る こ と 。

(同意可)

配点	
1	11
2	1
各2点×	7 = 14点
2	6
その他	各4点×20 = 80点
100点	

1

1 本文十二行目に「中枢神経系の前方の端に、感覚器からの情報を受け取る場所ができました」とあり、次の行で「中枢神経系の前方部が膨らみ始めます。——これが脳です」とあるので、「感覚器からの情報を受け取る場所」＝「脳」ということになる。

2 「何のために」「まとめて書いてある」という設問の文言に注目しよう。本文十四行目に、この条件にぴったりとあてはまる文がある。

3 本文十行目に「もともと口は『消化管の入り口』としてあった」と書かれている。この文の内容自体が③のある文とほぼ同じ内容になっている。

4 易しい問題だが、一つぬけてしまったり、「顔」を書いてしまったりしないように気をつけよう。

5 (B)の直後は問いかけの文になっており、ここで少し話題が転換されるので、言いかえの接続詞である「つまり」は入れられない。

6 一つ目の⑤を大雑把に見ると、首から下の体がつながっている部分の一番前方に、まず目と鼻と耳と口ができました」という部分は「進化の過程」について説明しているところである。二つ目の⑤にあてはめても「進化の過程」で意味が通じる。

7 本文終わりから七行目に「エラに行くはずだった神経を、私たちは脳神経の一部として使っているのです」と書かれている。その二行後にその「脳神経の一部」を「顔面神経と三叉神経、舌咽神経、迷走神経、迷走神経の付属である副神経」と具体的に言いかえている部分があるのでこれが答えになる。

8 本文十六行目の「それ」はぬけている文の内容を指している。ここに入れないと十六行目の文は意味がわからなくなる。「視覚」ということばにも注目し、通読時に違和感をおぼえてほしいところである。ここで何も感じることなくふつうに読み進めている場合は読み方に問題がある。また、「直前の五字」というのが前の文の終わり五字になるので、句点をふくめた五字が答えになることも気をつけよう。

9 前半は「感覚器」について、後半は「エラ」についての話である。

10 アは文章の前半で説明されていることに合っている。イは二行目ですでにそのことが示唆されており、その後の説明で正しいことがわかる。ウは「もともとエラになるべきものだった」ので、エラそのものではないからおかしい。

11 a「器官」は「気管」「期間」などの同音異義語に注意しよう。「官」を「管」と書くまちがいはよくある。bは「発」の「はつがしら」の形、「達」の右側の線の数などをまちがえないようにしよう。c eは特に難しくはないので確実に正解してほしい。

2

1 aは意味をよく考えて、「週刊」や、ましてや「習慣」などと書いてしまわないように気をつけよう。b「路」の「あしへん」は「足」とは形が異なるので正しく書こう。

2 線①の直後に「突然の朋子の言葉に、麻美の思考カイロは固まったままだった」とあるので、ウの「とまどう気持ち」がびつたりだろう。アの「強い怒り」はこの部分では感じられないし、イの「実感」はまだここでは感じておらず、少し経ってからの気持ちである。エは「朋子以外の友だちを作ることもできた」というのがおかしい。

3 I 線②の直後にある朋子の表情である。その表情が「期待でいっぱい」であり、「さみしさ」はまったくにじみ出ていないと麻美は感じたのである。

II 翌日から「朋子の会話はしばし」に、「新しく引越していく場所への夢が入りこんでいた」のである。それはIでの朋子の表情を裏付ける内容だったと言える。

4 本文二行目も朋子のことばであり、ほぼ同じことを言っていることがわかっている。イメージしやすかったのではないだろうか。

5 線④の直前には「いまさらどのグループに入っていけばいいのだろう」、四行後に「朋子がいなくなったら、わたし、どうなっちゃうのだろう」とあり、さらに四行後には「不安な思いはあとからあとからふくらんでいった」とある。

6 直前の二文の内容を指しているのはわかるのではないだろうか。うまく六十字以内にまとめてほしい。麻美と朋子にあてはまる内容として書くことも心がけるべきだろう。

7 「つつけんどん」とは「無遠慮でとげとげしいさま」、「くったくのない」とは「心配ごとがなく、さっぱりしている」という意味である。知らなかったことばは常に自分の知識としていくようにしてほしい。

8 直前の「天真らんまん」の意味がイとほぼ同じなので、知っていればわかりやすかったが、朋子の言動・態度としてどういうところを指しているのかを読み取って答えればよい。線⑧の直後の内容からして、マイナスの意味とは考えにくい。

9 (A)は突然なかに会ってしまふときの「ばったり」、(B)は心臓がはげしく鼓動していることを表す「ばくばく」、(C)は物事がだんだんと押し寄せまってくるときの「ひたひた」、(D)は薄暗い電灯が照らしている様子を表す「ぼんやり」がそれぞれ答えである。

10 まず「思わず、まばたきをした」という行動自体が「おどろきとまどう気持ち」の表出だと読み取ってほしい。「あれ？」という直後のことばもそれを表している。アは直後の「道をまちがうはずがない」と矛盾する。イはまだ起きていない。エはこの瞬間のことではない。

11 そもそも前半の話があって、この場面がどういう意味を持つのかというつながりを読み取れば、ここでの「悩み事」が前半の「朋子がいなくなつたらどうすればいいのか」ということを指しているとわかるはず。

以上